

働きながら治療も

# 下肢静脈瘤

## 日帰りレーザー治療

立っているとき、ひざからふくらはぎにかけての皮膚近くにある静脈が太く浮き出たり、こぶのように膨れあがったりする病気、それが下肢静脈瘤（かしじょうみやくりゅう）です。男性より女性に多く、加齢とともに発生頻度は高くなり、立ち仕事をする人に多くみられるようですが、日帰りでのレーザー治療が働く人たちに注目されています。「医療法人財団 池友会 福岡和白病院」心臓血管外科の樋口真哉医師に病気とレーザー治療法などを伺いました。

### 下肢静脈瘤の症状

- 足が重い・だるい・疲れやすい
- 夜間の筋肉のこむら返り
- 足のむくみ
- かゆみ・湿疹
- 足の色が赤黒くなる・皮膚が硬くなる
- 赤くはれたり熱感があって痛みがある
- 足の血管が浮き出してぼこぼこ膨れている

福岡和白病院 心臓血管外科  
樋口 真哉氏



あります。赤くはれて痛くなったり、皮膚の色が少し赤黒くなったりし、それに伴って湿疹みたいなものが出てかゆくなることもあります。大きな静脈瘤が皮膚のすぐ下にあるような場合、潰瘍ができたりすることもありますね。

静脈内部を焼くレーザー  
眠っている間に終了

### 治療法は

静脈瘤を起こしてしまった静脈を元に戻すことはできません。足には別に深部静脈がありますので、皮膚に近い静脈はなくなっても健康に大きな支障はありません。そこで治療の基本はその静脈を抜くか、つぶすかしてなくしてしまうことなんです。レーザー治療は、点滴の針より少し大きめの針を静脈に刺し、先端からレーザーが出る細いカテーテルを針の穴から挿入し、静脈内の必要な箇所まで延ばします。そして、レーザーを出しながらカテーテルを手前に引いていくと、瞬時に静脈を内部から焼いてしまいますので血管はその場でつぶれます。つぶれた血管は時間の経過とともに細くなり、最後は消滅します。レーザー治療の対象となるのは、

深部静脈

大伏在静脈  
(表在静脈)

小伏在静脈  
(表在静脈)

血管を内側から  
レーザー焼灼し  
“つぶれた”状態にする

カテーテルを挿入して…



手術前



手術後



## 日帰りでのレーザー治療

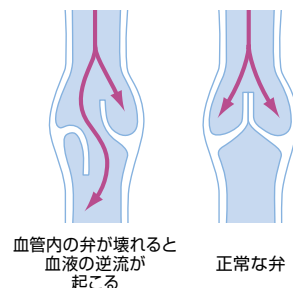
血管弁の不調で発生  
患者の多くは女性

下肢静脈瘤はどんな病気ですか  
立っているときに、ひざからふくらはぎにかけての皮膚近くにある静脈がうっ血し、ぼこぼこ盛り上がり蛇行してくる病気です。静脈が正常より太く膨らんで青く透けて見えるようになります。

### なぜ起きるのでしょうか

心臓から動脈を通過して下肢へ送られた血液は、静脈を通過して再び心臓へと戻っていきます。立ったり歩いたりしているときは、足の筋肉が収縮し、ポンプのような役目をして心臓までの1.5倍近い落差を押し上げていくわけです。

静脈内には一方通行の弁があちこちにあり、血液が逆流しない仕組みになっています。ところが、何らかの理由で弁が故障すると、逆流した血液が静脈にたまりがちになります。「うっ血」といわれる状態です。長年続くと静脈内の血液が多くなると血管への圧力が通常より大きくなり、静脈が少しずつ膨らんで大きくなっていくのです。これが静脈瘤の発生メカニズムです。



正常な弁  
血管内の弁が壊れると血液の逆流が起こる

女性の場合、妊娠して大きくなった子宮が静脈を圧迫し、それより下方の

静脈にうっ血が起こるので、妊娠が下肢静脈瘤のきっかけになることがあります。

### 症状は

足がだるい、重たいと感じたり、夜中につったりすることが多いようです。むくみ、ジンジンする感じも

### 最短3回の外来で治療可能

治療時間は30分〜1時間

一般的なレーザー治療の流れは  
外来1回目は、問診と診察です。超音波検査で、どこから、どれくらい血液が逆流しているかを調べ、レーザー治療の可否を判断します。深部静脈の血流が悪かったり、詰まったりしている場合や治療中の病気をもちの方には施術できないことと判断されます。レーザー治療が可能と判断されると、採血、レントゲン

検査をし、心電図を取ることになります。

外来2回目に治療が行われます。治療自体は30分から1時間で済みませんが、麻酔がとれ、自分で歩くことができるようになるまで休んで、その後帰宅ということになります。

外来3回目は、治療に問題があれば翌日、問題がなければ1、2週間後に病院に行き治療効果を確認してもらいます。

